

1. 概要

10月議会選挙のための党内選挙候補者の登録期を迎え、各政党及び選挙連合が選挙裁判所に候補者を登録した。ブエノスアイレス州選挙区では、キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領のペロン党候補者リスト作成を巡る交渉は合意に至らず、両陣営の対立状態が続いている。また、ロサッティ司法相が辞任し、イリバルネ国内治安長官が新司法相に就任した。その他、モジャノ労働総同盟（CGT）共同代表が単独代表に就任した。

外交面では、リオグループ外相会合が重で開催された他、ウルグアイのセルロース工場建設が重において環境問題を引き起こしかねないとして両国間で外交問題化した。

2. 内政

(1) 10月議会選挙（上院改選議席：24、下院改選議席：127）

(イ) 全般

8日、各政党及び選挙連合による党内選挙候補者の登録期を迎えた。しかし、党内選挙は、党内に対立候補者がいない場合には行う必要がなく、ブエノスアイレス州選挙区で急進党のみが党内選挙を実施する等、ほとんどの政党が党内選挙を行わないと見られている。

(ロ) ブエノスアイレス州選挙区（上院改選議席：3、下院改選議席：35）

(i) ブエノスアイレス州選挙区に関して、キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領の候補者リスト作成を巡る交渉は決裂し、両陣営は、別々に候補者リストを選挙裁判所に提出した。

(ii) 7日にクリスティーナ大統領夫人（サンタクルス州選出上院議員）が、9日にドゥアルデ前大統領夫人（ブエノスアイレス州選出下院議員）が、それぞれ同州において立候補発表式を行い、両陣営は対決姿勢を明確にした。

(iii) キルチネル大統領は、選挙連合である「勝利のための戦線（FV）」から上院議員選挙にクリスティーナ大統領夫人、パンブーロ国防相、下院議員選挙にバレストリーニ・マタンサ市長、タイアナ筆頭外務副大臣等を立候補させることになった。

(iv) 一方、同州を地盤とし従来より大きな影響力を行使してきているドゥアルデ前大統領は、「ペロン党（PJ）」から、上院議員選挙にドゥアルデ前大統領夫人、ディアス・バンカラリ・ペロン党下院議員団長、下院議員選挙にビジャベルデ下院議員、ミュレル上院議員等を立候補させた。

(v) 選挙連合である同州選挙区のFVの主要構成政党はペロン党であり、ペロン党は、FVとPJの両陣営から候補者を擁立したことになる。これにより、ペロン党は、キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領の対立関係があるとは言え、同選挙区の上院議席3席全

てを獲得する可能性が高いと見られている（注：憲法54条は、獲得投票数第1位の政党が2議席、第2位の政党が1議席を獲得すると定めている）。これに対して、野党は、与党・ペロン党の3議席獲得戦略は、少数政党の声を議会に反映させるという憲法の趣旨に反すると主張している。

（ハ）ブエノスアイレス市選挙区（下院改選議席：13）

（i）ブエノスアイレス市選挙区では、ビエルサ外相（勝利のための戦線）、マクリ党首（変革党）、カリオ党首（共和国平等党）の有力候補者に加え、カバロ元経済相（共和国行動党）、サモラ下院議員（自決・自由党）、ブルリッチ元労働相（挙国一致党）、女優モリア・カサン（セントロ連邦運動）等が立候補する。

（ii）26日、ビエルサ外相は、外相職と選挙運動を両立させるため、10月23日の議会選挙まで一定期間仕事を休むと述べた。

（2）司法相の交代

（イ）25日、ロサッティ司法相は、「サンタフェ州で家族と共に過ごす必要があった」等と述べて、個人的理由によりキルチネル大統領に辞表を提出した。

ロサッティ司法相は、10月議会選挙においてサンタフェ州選挙区から下院議員に立候補するようキルチネル大統領から要請されていたが、同要請を断ったため、キルチネル大統領との関係が悪化したとの見方もある。

（ロ）26日、イリバルネ国内治安長官は、キルチネル大統領の前で宣誓を行ない、新司法相に就任した。

（ハ）イリバルネ新司法相は、キルチネル政権において、ベリス、ロサッティに続く3人目の司法相となった。また、今回の交代は、キルチネル政権における2度目の閣僚交代となる。

（3）労組

（イ）6日、労働総同盟（CGT）執行部は、モジャノ共同代表（トラック労組代表）を今後3年間の単独代表に選任した。CGTは、昨年7月に再統一して以降、3人の共同代表（モジャノ、リンヘリ、ルエダ）により運営されてきたが、CGT内部には、モジャノ代表の権威主義的な手法に批判的なグループがおり、一部で内部対立が続いていた経緯がある。

（ロ）同日の執行部会議では、執行部33人の内25人がモジャノ単独代表を支持したが、モジャノ体制に反対するルエダ共同代表を含む8人が欠席した。

（ハ）14日、モジャノは単独代表に就任したが、CGT内の一部労組は、同就任を支持しておらず、CGT内の対立は続いている由。

（4）急進党

31日、ブエノスアイレス州議会議員選挙、急進党同州支部執行部選挙等のための同党党内選挙が実施され、アルフォンシン元大統領陣営が、ストルビセール下院議員陣営を破って勝利した。同元大統領は、急進党党首に返り咲くことを望んでいる。

(5) ディスコ火災

29日、ブエノスアイレス市議会ディスコ火災調査委員会は、イバラ市長に対する弾劾審議を行うよう市議会に勧告した。イバラ市長は、昨年12月30日に起きたディスコ火災に関して、防災コントロールが不十分であった等として批判されてきた。

3. 外交

(1) リオグループ外相会合

(イ) 22日、ブエノスアイレス州ピラル市において、第25回リオグループ外相会合が開催された。

(ロ) 同外相会合では、ハイチ情勢に対する懸念、政治不安定化しているニカラグアに対する速やかな国家権力のバランスを取る体制確立の呼びかけ、11月4-5日に開催予定の第4回米州サミットの議題として「貧困対策及び民主主義強化のための雇用創出」が重要であることについての合意等が表明された他、各国外相は、会議のスリム化、リオグループの強化、ベリーズのリオグループ加盟、リオグループ・EUの対話等について話し合った。

(ハ) 8月25-26日にリオネグロ州バリローチェ市において、第19回リオグループ首脳会合が行われる。

(2) ウルグアイ

(イ) ウルグアイのフレイ・ベントス市（亜エントレリオス州 Gualaguaychu 市との国境沿い）におけるセルロース工場建設に関し、同建設の環境に与える影響が懸念され、同問題が二国間で外交問題化した。

(ロ) 5月5日、キルチネル大統領及びバスケス・ウルグアイ大統領は、同工場建設が環境に与える影響を調査するため両国の関係者で共同調査を行う合同委員会を設置することで一旦は合意したが、実際には、同合同委員会は開催されなかった。

(ハ) 7月21日、ビエルサ外相とガルガノ・ウルグアイ外相は会談を行ない、同委員会を近日中に開催し、180日以内に最初の報告書等の発表を行うことで合意した。

(3) 安保理改革

21日、亜を含むコンセンサスグループは、安保理非常任理事国を10カ国増やす決議案を国連事務局に提出した。同決議案は、G4決議案と対立するもの。

(4) 米州開発銀行（IDB）総裁選挙

(イ) 22日、ビエルサ外相は、27日のIDB総裁選挙に関して、「亜は伯の Sayad 候補を支持するであろう」と述べた。

(ロ) 27日、IDB総裁選挙が行われ、コロンビアのモレノ候補が選ばれた。

(5) テロとの戦い

(イ) 7日、亜外務省は、ロンドン地下鉄等での連続爆発事件を非難するコミュニケを発表した。

(ロ) 8日、亜外務省は、リオグループの議長国として、ロンドン地下鉄等での連続爆発事件を非難するコミュニケを発表した。

(ハ) 27日、亜外務省は、リオグループの議長国として、エジプトにおける連続爆発事件を非難するコミュニケを発表した。

(ニ) 28日、亜外務省は、イラクにおけるアルジェリア外交官殺害事件を非難する旨のコミュニケを発表した。

(6) 要人往来

(イ) 来訪

7月22日 リオグループ外相会合開催

7月27-28日 ビダル・チリ内相

(ロ) 往訪

7月5-6日 デビード公共事業相のペルー訪問

7月7-16日 ラバーニャ経済相の訪中（WTO非公式閣僚会合等出席）

7月9-11日 キアラディア外務副大臣の訪日（愛・地球博亜ナショナルデー等関連行事出席）

7月10-14日 メイヤー環境庁長官の訪日（愛・地球博亜ナショナルデー等関連行事出席）

7月14-15日 キアラディア外務副大臣の訪日

7月18-19日 デビード公共事業相のスペイン訪問（企業関係者等との会談）

7月24-25日 ビエルサ外相のメキシコ訪問（亜・メキシコ二国間委員会出席）

7月28日 デビード公共事業相のボリビア訪問（Dumm エネルギー相との会談）